

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

○学級開き・自己紹介すごろく(第1学年)

班で自己紹介をしながら、すごろくを進めていき、班員同士、話ができるきっかけづくりをする。入学後、すぐに取り組むことで生徒は安心して学級で過ごすことができる。



【取組2】(A中学校)

○運動会・応援団(全校)

第3学年の生徒の応援団員が中心となって、縦割りクラスで演技する。

演技内容や練習方法も自分たちで考え、運営することで、学年を超えた交流が見られている。教員は応援団員に対し、基本的には見守るようにし、生徒同士が主体となり活動に取り組めるようにしている。生徒同士が互いを思いやり、活動に取り組めるよう、必要に応じて活動の行い方や他者との関わり方について助言した。



【取組3】(A中学校)

○自己決定の場を提供する授業づくり

第3学年の理科の授業では、自己の仮説を検証できるよう実際に実験させたり目の前の事象を確認させながら、各自に考察する時間を与え、文章にまとめたり発表させたりする時間を充実させ、自ら考え、選択し、決定する力を育てるようにした。また、考察する時間を取った上で教員からの解説をすることで、生徒にとって理論だけの学習ではなく、実感を伴った学習として定着させている。

【取組4】(B中学校)

○不登校未然防止研修会

・第1回(5月)

居場所・きずなづくり、生徒意識調査の実施と教員予想

・第2回(6月)

第1回生徒意識調査の結果と、居場所・きずなづくりの取組決め

・第3回(11月)

第2回生徒意識調査結果と、効果検証、居場所・きずなづくりの修正、生徒指導提要に記載されている生徒指導の実践上の視点を踏まえた授業について

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（C中学校）

- 2週に1回 不登校対応委員会の実施（管理職・生活指導主任・各学年・養護教諭・不登校対応巡回教員・SC・SSW・校内別室指導支援員）
- 会議にSSW・SCが参加し、情報共有と迅速な対応が可能になった。
- 校内別室支援員が会議に参加し、別室利用生徒の情報共有ができた。

アウトリーチによる支援（C中学校）

- 日本語を十分に話せない外国籍の生徒が昼夜逆転・ゲーム依存となっている事例
- 家庭訪問で、保護者・本人と話をする。
- 週に1回の家庭訪問を継続してきた。
- 本人とカードゲーム等をして交流した。
- 日本語指導の先生が来る日だけでも登校できるように働きかける。
- 登校できた日以降も支援を継続した。

校内別室における支援（D中学校）

- 誰でも、いつでも利用可能（長期化・未然防止の両方に対応）
- コミュニケーション活動のできる場所と個別のブースの両方を兼ね備え、生徒が過ごす場所を選択
- 校内別室での過ごし方を支援員と相談しながら自分で決定
- オンライン授業に対応



デジタル機器を活用した支援（A中学校）

- 校内別室で一人1台端末を活用しオンライン授業を受けられるようにした。
- 学校行事の際、校内別室にプロジェクターを設置し、オンラインで舞台発表等を鑑賞できるようにした。
- 長期化している生徒に向けてVLP（バーチャルラーニングプラットフォーム）を紹介した。

関係機関との連携

- 不登校対応巡回教員が、教育支援センターを見学し、長期化している生徒に入室の紹介をした。
- OSSW から、地域の居場所や学習教室を紹介してもらい、生徒に情報提供した。
- 不登校対応巡回教員が、不登校生徒の親の会を見学し、連携を図った。

成果

- 拠点校・巡回校において、校内別室に一定数の生徒が継続して登校できるようになった。
- 面談や家庭訪問を継続した結果、保護者の不登校に対する考え方が前向きに変化した。

課題

- 校内別室の在り方について教員間の考え方・意識の差がある。（使用する生徒の選別や、早急に教室に戻すなど）